

今月号の ■登録団体からの寄稿 『子どもの発達を保障したい』を形に -具体的対策の提案と実践-
トピックス ■認定インストラクター紹介 「子どもの未来を明るくする応援をしていきたい」

今回は、子どもとメディア北海道の事務局長の中谷通恵さんなかやと
新インストラクターのこぎそ小木曾道子さん(公益・海外子女教育振興財団 講師)にご寄稿いただきました。
子ども支援と保護者支援、両輪を実践されているお二人です。



「子どもの発達を保障したい」を形に
-具体的対策の提案と実践-

中谷 通恵さん

(子どもとメディア北海道 事務局長)

◇子育て支援活動の原点と実践

私は、北海道でたくさんの仲間を得て活動してきました。子育て支援のNPO代表、白老町子育てふれあいセンターの運営、「子どもとメディア北海道」の事務局長などです。

その原点は、遠い昔の小学校教諭時代にあります。乳幼児期の自己肯定感や基本的信頼感の育みがいかに大切かを感じて、愛情深く子どもと関わらない親を批判していました。ところが自分が専業主婦になって知らない町で子育てする事になり、今ではよく言われる「孤立した子育て」を実感したのです。「親が安心して子育てできるために子育て支援を網の目のように張り巡らさねば」と確信し、仲間を増やし行政と協働しながら、多様な支援を行ってきました。

当事者だからこそ切実に感じられるニーズ(集まる場所・預ける仕組み・訪問支援・学びの場)を「まずは自分たちでやってみよう」と、小規模でも実践しました。そして、その成果や参加者の思いを報告書などにまとめて、行政の関係機関に配布しました。事業によっては国などの補助事業を活用する、また、必要な支援の内容が地域で継続して行われるように行政と協働してきました。もちろん、小規模な自治体だから実現できたのだと思います。

◇「メディア」啓発活動

「子どもとメディア」関係では、学びに行った福岡で偶然出会った道内の小児科医と「北海道でも活動を始めよう」と会を立ち上げ、情報誌の発行や講演・授業などを行いました。全道に広まったのは、新聞などのマスメディアに取り上げられたことや、北海道教育委員会の「アウトメディア」の取組に参画した効果が大きかったでしょう。3年前には道内に15名ほどのインストラクターを養成し、それぞれの特色を生かして地道に活動しています。

振り返ると、仲間を得たり協働したりできたのは、原点である「子どもの発達を保障したい」の思いを、その時々^の社会の課題に合わせて言葉にし(審議会などでの発言・新聞取材・小論文応募など)、具体的な活動を提案し実施してきたからかなあと思っています。

大学教授などの識者の援助も受けられなかったのが、貴会はじめ道外の先進的な活動団体の皆様に多くのことを学ばせていただいた事は言うまでもありません。

「子どもの未来を明るくする応援をしていきたい」

小木曾 道子さん(公益・海外子女教育振興財団 講師)

私は現在、海外生活(ドイツとアメリカ)の経験を活かし、海外生活・教育アドバイザー、カウンセラーをしています。

公益・海外子女教育振興財団では渡航前配偶者講座を担当。講演や国内外で悩んでいる親子の相談にも対応しています。

THInet インストラクターになろうと思ったきっかけは、NPO 法人子どもとメディア主催の「スマホ社会と子どもの未来」と題する全国フォーラムに参加し、専門家の話にスマホ・ネットによる健康問題が想像以上に深刻化している現実を知り衝撃を受けたからです。もっと学びを深めようと、THInet の講習会に参加し、悩、睡眠、目の問題等、沢山の学びがありました。

今や欠くことのできない ICT の便利さとその健康被害を保護者にわかりやすく発信し、子どもの未来を明るくする応援をしていきたいと考えております。

どうぞよろしく!



ご意見・ご感想をお寄せいただくと幸いです。
連絡先: 養成協 HP よりメール(燈火編集長 矢野宛)